

ろう児のための  
フリースクール『きずな』代表

はな ばたけ しん ご  
花 畠 慎 吾 さん



プロフィール

1973年、大阪市生まれ。大阪府立生野聾(ろう)学校(幼稚園～小学部～中学部)、大阪府立生野高等聾(ろう)学校を経て奈良産業大学法学部法学科へ。22歳で卒業と同時に、米国の個人向け金融サービス会社の日本法人に就職し、現在は東大阪市内にある大阪IT部に勤務している。2000年6月8日、ろう児との交流、ろう児を持つ親のサポートをめざして有志と共にろう児のためのフリースクール『きずな』の創立に参画。03年4月から『きずな』代表。



平成16年度大阪市家庭教育支援総合推進事業海遊館の手話通訳つきガイドツアーにて(写真提供:花畠さん)

# ろう児が、 見て理解できる世界を

北区の大阪市立総合生涯学習センターを活動拠点に、ろう児(聞こえない子ども)の生き方や進路などの選択肢を広げるためのサポートを続けている非営利団体がある。ろう児のためのフリースクール『きずな』だ。2000年に設立され、この6月に丸5年目を迎える。その代表が、花畠慎吾さんである。

『きずな』を運営しているスタッフは8人。花畠さんを含めスタッフ全員がろう者であることが、『きずな』の特徴のひとつだ。それは、「ろう者は、耳が聞こえないためにさまざまな壁を経験しており、自分自身をモデルとして、ろう児に自信と誇りを持つための支援が可能」という花畠さんらの強い思いの表われでもある。

参加している子どもは、幼稚園、小学生低学年部、小学生高学年部、中学部の4つの部に約20人。活動は、ほぼ毎月行われる日帰りのワークショップや、宿泊を伴うサマーキャンプなどだ。

たとえば昨年ワークショップでは、4月に大阪市立総合生涯学習センターでろう者の大道芸人による風船アート

を楽しみ、5月には生駒山麓公園(奈良県)でフィールドアスレチックなどを体験。夏のサマーキャンプでは、大阪府立総合青少年野外活動センター(能勢町)でアウトドア生活を満喫した。また11月には海遊館を手話通訳つきで見学し、今年2月にはクレオ大阪西で中国人のろう者から餃子の作り方や文化を教わるなど、遊びや見学をとおして、子ども同士、子どもとスタッフ、スタッフと保護者とのコミュニケーションづくりが進行する。

聞こえないゆえの壁

花畠さんたちが、『きずな』の設立を決心したのは、前段でも述べた「聞こえないゆえの壁に悩んだ経験を持つ」からに他ならない。当時のろう学校の教育は、聴覚口話法(補聴器をつけてさまざまな訓練をし、話し言葉でコミュニケーションができるようになることをめざす)が主流であり、大学では手話による授業が皆無だった。そのため大学入学当初は、「朝早く正門前に立って、ピラを配りました。私は耳が

聞こえませんがとアピールし、先生や大学当局に対しても、私ができることできないことを説明し、私ができる方法でお願いしました」。花畠さんの言う「分かる方法」とは、「手話や、手話通訳によるコミュニケーション」である。

大学卒業後、外資系の日本法人に就職し、主としてパソコンによる業務用ソフトの新規開発や仕様変更などに携わっている。そのかたわら「聞こえなくても誇りと自信を持って生きる方法を伝えたい」と、聞こえない子どものためのフリースクール設立を決意。ろう者である会社員や公務員、大学生らが賛同し、『きずな』が誕生したのである。

設立5年目を迎え、「私たちのコミュニケーションの手段は手話です。だから社会に聞こえない人がいることをもっとアピールしていくのも、ろう児が見て理解できる世界の実現につながると思います」と力説する花畠さん。ストレス解消法をたずねると、即座に「子どもたちの笑顔です」と答え、口元をほころばせていた。

(文・脇本勤 / 表紙写真・高島悠介)